

このまちですっと暮らし続けるために、
もっと住みやすいまちにしたい

千葉県認知症地域支援体制構築モデル事業
香取市実施報告
(平成 19 年度～平成 21 年度)

目 次

1. モデル事業の概要	11
2. 具体的な取組み～3年間のモデル事業を終えて～	
(1) ネットワークづくり	
香取市認知症対策推進会議の開催	13
各モデル地区での認知症支援会議の開催	14
新宿地区	14
大倉地区	16
野田地区	18
府馬地区	20
(2) 地域資源マップ等の作成	
香取市健康福祉介護マップ	22
新宿地区認知症あんしんマップ	23
認知症あんしんガイド（大倉地区）	24
野田地区認知症支援マップ	25
府馬地区危険箇所及び注意箇所	27
(3) 地域支援のための基盤づくり	
キャラバン・メイト養成研修の開催	28
認知症サポーター養成講座の開催	30
学校での認知症サポーター養成講座	33
サポーター認定ステッカーの配布	35
認知症のためのケアマネジメント・センター方式研修会の開催	35
かかりつけ医認知症対応力向上研修の開催	36
(4) 認知症の人及びその家族への支援ネットワーク	
認知症家族のつどい	37
個人への支援ネットワーク構築（新宿地区）	38
(5) 啓発活動	
認知症メモリーウォーク・千葉 in 香取	40
香取のふるさとまつりに PR 活動実施	44
認知症よろず相談窓口の設置	45
(6) 認知症予防活動	
野田地区お楽しみ会の開催	46
野田地区ウォーキングコース	47
(7) 徘徊 SOS ネットワークへの取組み	
住金団地	48

3. 年度別事業実績

(1) 平成 19 年度の活動報告	49
(2) 平成 20 年度の活動報告	53
(3) 平成 21 年度の活動報告	58

1. モデル事業の概要

当市はH18年3月に1市3町が合併し、人口89,334人 高齢化率24.9 (H19.4現在) 県下56市町村中20番目に高齢化が進んでいる市です。

H18年の介護保険法改正に伴い直営の地域包括支援センターを2箇所介護予防の拠点として設置しましたが、介護予防の取り組みは筋力向上トレーニング・健康体操等は実施しているが、認知症に的を絞った取り組みはしていない現状です。

認知症の相談は、徘徊等で家族が介護に疲れ施設を紹介してほしいという相談がほとんどで、早期発見・早期対応の必要性を痛感しました。そこで、千葉県認知症地域支援体制構築モデル事業の実施に取組み、認知症をより多くの方に知ってもらい、認知症になっても、地域で支えあえるネットワーク等を作っていくこととしました。

【目的】

地域において、認知症高齢者等と家族を支えるために、認知症への対応を行うマンパワーや拠点などの「地域資源」をネットワーク化し、相互に連携しながら有効な支援を行う体制を先駆的に構築し、県内の各地域にその成果を普及していく。

【実施主体】

千葉県。香取市への委託により実施。

【実施期間】

平成19年度・20年度・21年度の3箇年

【事業内容】

○コーディネーターの配置

認知症ケアのニーズや事業所等の状況を熟知している人をコーディネーターとして配置し、地域包括支援センターや関係者と協力し、ネットワーク構築の推進や調整等を行う。

○地域資源マップの作成

「地域資源」の情報を収集・整理した「地域資源マップ」を作成し、地域住民等に対して広く提供する。

○認知症ケア等のサポート

認知症に関する相談・ケアプラン等について、コーディネーターと地域包括支援センターが協力しながら、地域資源マップを活用し適切なサービスへつなぐことへの支援を行う。

○徘徊SOSネットワーク・見守りネットワークの構築 など

香取市及びモデル地域の人口等の現状

(単位：人)

	大倉地区	佐原新宿地区	野田地区	府馬地区	住金団地	香取市	千葉県
人口	1,988	11,597	1,519	3,041	1,154	86,307	6,199,089
世帯数	695	4,616	571	896	493	29,086	—
65歳以上	734	3,068	310	824	514	22,547	1,180,939
高齢化率(%)	36.92	26.46	20.41	27.10	44.54	26.12	19.05
要支援要介護認定者数	139	320	41	81	24	2,441	—
認知症高齢者数	102	170	19	41	13	1,378	—

※認知症高齢者数は、要介護認定者のうち認知症自立度Ⅱ以上の者。

※人口・世帯数・65歳以上については、平成20年9月1日現在（千葉県のみ平成20年4月1日現在、住金団地は平成21年4月1日現在）

※要支援・要介護認定者数、認知症高齢者数については、平成20年9月1日現在（住金団地はH21.5.1現在）

なお、香取市については、更新認定申請者を除いているため、実際の数値と異なる。

※ 大倉地区には、特別養護老人ホームがあるため、他の地区より高齢者や要介護者等の比率が高くなっている。



2. 具体的な取組～3年間のモデル事業を終えて～

(1) ネットワークづくり

地域支援体制構築事業を進めていくにあたり、行政の視点だけではなく、様々な立場の方の視点から検討し、事業に取り組んでいくことが重要であると考え、平成19年に、香取市全体の認知症対策を検討する「香取市認知症対策推進会議」を設置しました。また、平成20年度、21年度は、「香取市認知症対策推進会議」のほかに、香取市内の新宿地区、大倉地区、野田地区、府馬地区の4か所をモデル地区に選定し、各地区で地域活動を行っている方々と地域支援会議を立ち上げ、さらに地域に密着したネットワークづくりに力を入れました。

【香取市認知症対策推進会議の開催】

- 目的：市の認知症施策の推進・評価（設置要綱についてはP46参照）
- 構成員：学識経験を有する者3名、関係団体を代表する者10名、関係行政機関の職員4名の17名で構成する。（名簿についてはP45参照）
- 内容：認知症対策に関する具体的な方策に関すること及び、認知症対策事業の円滑な実施とその成果の評価に関すること、認知症対策の推進に必要と認められる事項を協議する。

開催年月日等	内容
平成19年12月1日	香取市認知症対策推進会議設置要領を制定 18名の委員を委嘱
平成20年7月29日	平成20年度第1回香取市認知症対策推進会議開催 ・認知症高齢者の現状とモデル事業の取組みについて
平成21年8月4日	平成21年度第1回香取市認知症対策推進会議開催 ・平成20年度事業報告と平成21年度事業計画

- 苦労した点：本人・家族・地域の声を施策に反映する
- 工夫した点：行政のみの取り組みにするのではなく、地域全体の取り組みとした。

【各モデル地域での認知症支援会議の開催】

この事業に取り組むに当たって、市内でもタイプの違う地域をモデル地区に選定し、住民及び周囲の介護福祉施設等職員の自らが、どのようにすれば自分たちの住んでいる地域をその地区にあった住みよい地域にできるかを考え、話し合い、住民同士で支え合うネットワークを構築することを目的として①～③に重点を置き、事業に取り組んだ。

※重点を置いた内容：①認知症の啓発②身近な人に気軽に相談できる体制の構築
③施設の機能を理解し、交流ができる

※各地域での支援会議：平成 20 年度は 4 か所、平成 21 年度は 5 か所を設定

(新宿地区：香取市の中心街であり、観光名所としても有名な地区)

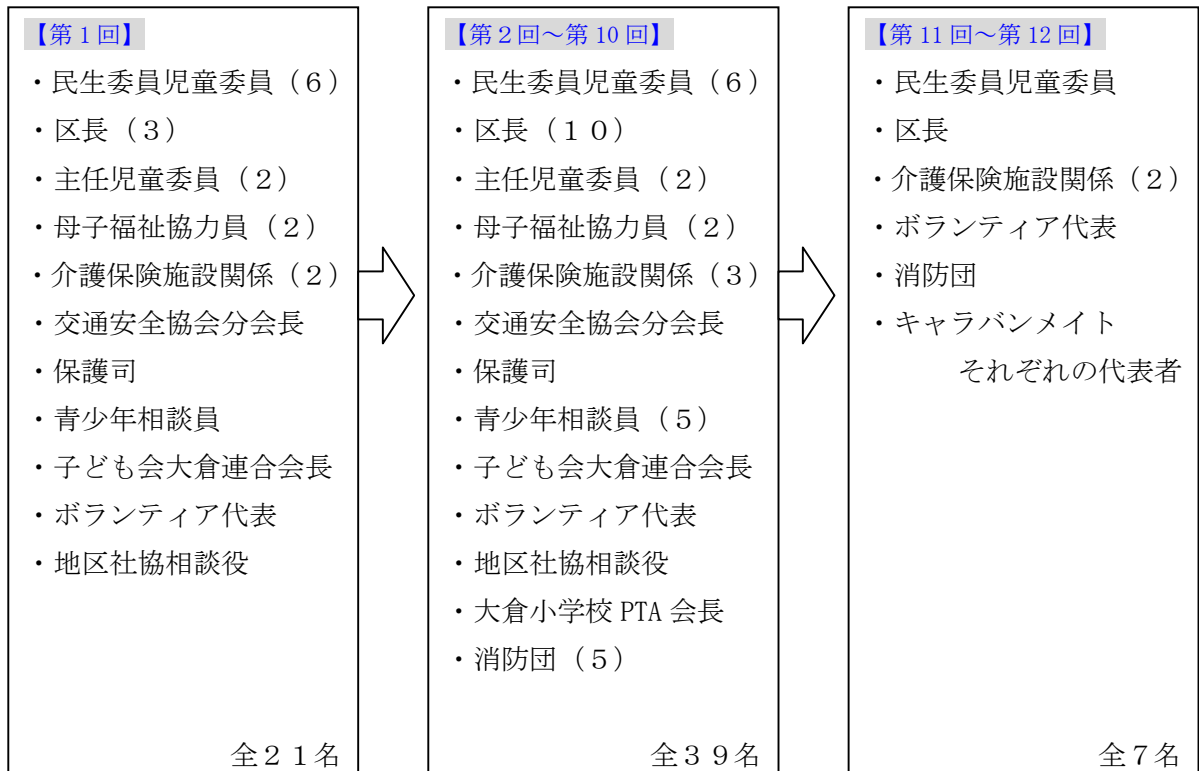
○構成員：サポート医 1 名、新宿地区民生委員 2 名、行政協力員 2 名、地区社協代表 2 名、高齢者クラブ 1 名、認知症家族の会 1 名、消防団 1 名、商工会議所 1 名、商店会連合会 1 名、商工会議所青年部会 1 名、ボランティア代表 (NPO 小野川と佐原の町並みを考える会、配食喜々の会) 2 名、ケアマネージャー 1 名、グループホーム代表 1 名、新宿地区コーディネーター 1 名、計 17 名

○内 容：平成 20 年度に新宿地区で取り組んだ「個人への支援ネットワーク」をもとに、地域の見守りへと展開する。新宿地区で活動している方を委員に選出し、商店街を中心とした新宿らしさを生かした支援体制を構築する。

開催年月日等	内 容
平成 21 年 7 月 23 日	第 1 回：モデル事業の概要説明・これまでの認知症に関する取り組み
平成 21 年 9 月 4 日	第 2 回：認知症について勉強会
平成 21 年 10 月 27 日	第 3 回：認知症の方とその家族を支える体制についてグループワーク
平成 21 年 12 月 10 日	第 4 回：活動案紹介・地域のつながりを考える
平成 22 年 1 月 28 日	第 5 回：地域で支えるネットワークについて
平成 22 年 2 月 23 日	第 6 回：認知症あんしんマップ作成

(大倉地区：特別養護老人ホーム・老人保健施設がある、水田や畑が多い農村地区)

○構成員：第1回は各団体から21名。第2回以降はネットワークの輪を広げるため2団体加わり39名。第11、12回は、委員の意見より、各団体の代表・介護保険施設関係職員で構成した。



(第1～5回：平成20年度開催、第6～12回：平成21年度開催)

○内 容：

- ・平成20年度・・・会議で地域資源マップの作成を委員へ投げかけていたが、地域資源マップの活用方法がはっきりせず、会議が進行しない状態となった。
- ・平成21年度・・・地域資源マップの作成よりも住民に認知症を理解してもらうことが先だろうという委員の意見をもとに、認知症サポーター養成講座を多数開催。また、認知症の理解者・応援者を増やす活動を継続して行うため、「大倉オレンジクラブ」を立ち上げた

《大倉オレンジクラブ概要》

- ・構 成 員…区長、民生委員児童委員、消防団、ボランティア、キャラバンメイト、介護保険施設（2箇所）
- ・活動内容… i. 認知症サポーター養成講座を開催する。
ii. 認知症や大倉に関する新聞を発行し、情報を伝える。
iii. 介護で悩んでいる方から相談を受けたら、専門機関を紹介。

○苦勞した点：

- ・約40名と委員数が多かったため、意見の集約が難しかった。
- ・委員が認知症を理解していなかったため、委員自身、認知症高齢者が地区にいるという現状がわからず、支援を必要でないとするものもいた。
- ・市は委員が認知症を理解しているという前提で話をすすめたため、事業理解に時間がかかった。

○工夫した点及び効果：

《認知症の理解を促すために…》

- ・認知症の人やその家族にどのような支援をしたらよいか分からない委員に対し、大倉地区で実際にあった認知症高齢者の介護事例を会議で検討することで、認知症本人や家族が求める支援を知ってもらうことができた。
- ・地域で認知症講座や事業説明等を行う際に、認知症支援の必要性を感じていない区長にも人集め等の協力をしてもらうことで、事業へ参加する動機づけができた。
- ・各区でのサポーター養成講座において「自分・家族がもし認知症になったら」というアンケートを実施し、委員に提示することで、住民の「いつまでも家で暮らしたい、暮らさせてあげたい」「地域で見守ってあげたい」という思いを委員に知ってもらった。

《支援体制を継続するために…》

- ・「親しみやすいもの」というところをアピールするため、支援会議委員のグループを「大倉オレンジクラブ」と名付けた。
- ・各委員に役割を設け、後任者へと引継ぎが可能な体制にした。
- ・大倉オレンジクラブ活動の手引きを作成し、引継ぎを容易にした。
- ・「認知症安心ガイド」ファイルを作成し、ファイルに追加していくものとして、年数回、大倉オレンジクラブで認知症や地域に関する新聞を発行・配布することにした。

- 今後の課題：①大倉オレンジクラブ各委員の役割が定着し、活動を継続できる。
②大倉オレンジクラブの自発的な活動
③認知症予防への取り組み

(野田地区：新興住宅地域で、旧住民と新住民が混在する地域)

○構成員：平成20年度行政協力員、民生委員、平成20年度高齢者クラブ会長、地区社協代表、食生活改善推進員、母子福祉推進員、ボランティア代表、認知症家族、住職、学識経験者、医師、グループホーム管理者（スマイル小見川）、介護施設職員（介護老人保健施設おみがわ）に加え、平成21年度以降は各年行政協力員、各年高齢者クラブ会長。

○内 容：地区内の認知症対策の活動を検討

・相談体制の構築

活動を地域に、認知症本人に、その家族に伝えるにはどのようにすべきか。

・予防活動の検討

高齢者の集い（お楽しみ会）の開催及びウォーキングコースの作成

○苦勞した点：

・会議立ち上げ当初の支援会議委員を含めた、地区住民のこの事業に対するモチベーションの向上。

・モデル事業が当初2年間という短い設定のなかでの、会議の活動方針の決定。

○工夫した点：

・支援会議は住民に親しみのある青年館にて開催。テーブルの配置や司会を務める地域包括支援センター職員座席等、少しでも委員が討論しやすい雰囲気づくりを行った。

・開催通知等は極力郵送を避け、委員宅等に担当職員が直接訪問し、意見交換。その積み重ねで地域包括支援センターと委員の関係が向上。遠慮のない討論が可能になった。また行政の取り組む姿勢を伝えることができた。

・会議ごとに検討内容が目的に向かって前進するように検討シートの工夫。

・支援会議が地域で認められ、活動が行いやすいように、事業開始のチラシに加え、委員の名前を地区内に回覧。

・支援会議委員と地域包括支援センターが地区役員会に頻繁に出席し事業の経過説明と協力依頼し顔の見える関係づくりをした。

・モデル事業終了後も活動が収束しないように、支援会議のメンバーは解散せずに今後も認知症支援の取り組みに協力してもらえることを了承。支援体制の継続

・事業終了後、より地域が主体となって活動できるよう、支援会議委員の中心メンバーが各年の活動計画を策定。他の委員や地域包括支援センター等は中心メンバーの声かけで、随時、その実行にむけて協力していくこととなった。

○今後の課題：認知症の検討をするということは、徘徊 SOS ネットワークは避けては通れないという委員達の考えのもと、地域の搜索時の連絡体制を構築していく。

《モデル事業を終えての野田地区の委員達の声》

・最初は雲を掴むような事業で、何をすればいいのかわからなかったが、委員が互いに協力して積極的に動けたこともあってとても手応えがある活動ができた。

・各組の常会に9組すべて参加したことはとてもよい取り組みだった。事業と相談体制の周知を含めて、地域全体にこの認知症ということへの意識の啓発が万遍なく伝えることができた。

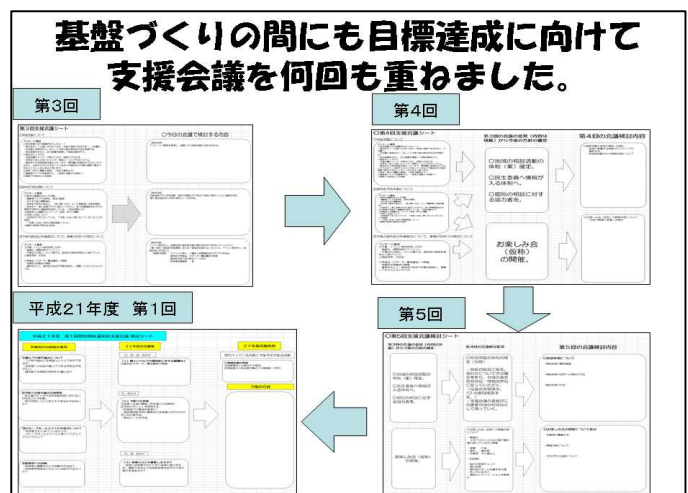
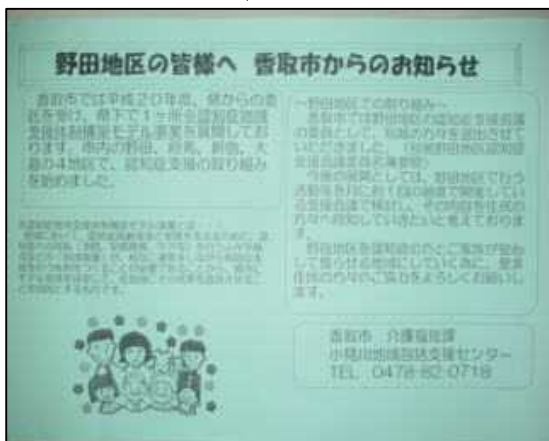
・事業前はグループホーム自体が何の建物か地域に伝わっていない状況が、モデル事業で地域との交流を持つ機会ができ、認識が深まった。運営推進会議でも、火事等が起きたときに、避難場所として青年館を貸していただけることになったり、お祭りの際にこども神輿が来てくれるようになったりと地域の方から積極的に提案していただけるようになった。グループホームとして参加できてとてもよかった。

・防災無線で野田の住所の人がいなくなったという放送があった時に、みんなが何かしなければと思うようになった。区長が各組長に情報提供したり、民生委員も警察に事情を伝えて情報をもらったりとそれぞれにできることをみんながするようになってきた。

・地域包括支援センターがきちんと自分達の取り組みをまとめてくれ、形のあるものになった。充実感を得ることができたのは、地域包括支援センターのおかげでもある。感謝したい。

・「委員として地域に名前を出せるほど自信がない。」と当初不安だったが、自分にできることから始めるようになった。普段の仕事の途中で、話をすると認知症かなと気になる人がいた。遠くから来ている様子だったので、警察に連絡すると、捜索願いが出ていたらしく、協力できたかなと思っている。

地域に回覧をして周知を行った(下)



連携シートを作成し、各委員が持寄り議論(上)

(府馬地区：地域のつながりや住民同士の顔なじみの関係が残っている地域)

平成20年度・・・地区内の認知症対策の活動の検討

平成21年度・・・拠点から始まる認知症支援の地域づくり

日下部ホーム（高齢者専用グループホーム）が地域と交流を持つことで、認知症の方々への認識を深める。個人や各地域活動が認知症の方を抵抗なく受け入れ、可能な限り地域で安心して過ごしてもらう地域を目指す。

○苦労した点：府馬地区は行政協力員が多数いる行政区の集まりであり、それぞれの地区ごとに組織がまとまっている。府馬という地区全体で一斉に活動を開始するという事は困難だった。

○工夫した点：

- ・日下部ホームの職員に地区のコーディネーターを依頼する
- ・府馬地区は昔ながらの人情が残る地域。お互いに助け合いができるような地域であった。当たり前に行っていることの中に認知症という視点を加えていくという、啓発面を意識した取り組みをすることとした。
- ・開催場所を地域のグループホーム（日下部ホーム）内で開催し、会議の進行をコーディネーターが行い地域とホームの関係づくりの一環にした。
- ・会議開催通知等も郵送せず、コーディネーターと職員が訪問し意見交換をした。
- ・支援会議委員と民生委員が地域の認知症相談員となり、チラシに名前を公表して回覧した。
- ・地区のコーディネーターが積極的に地域のイベント等へ出かけ、モデル事業の周知と認知症関連の説明を行った。
- ・21年度は会議内での意見交換や活動方針の決定が行いやすいよう活動目標となるテーマを設定。各委員が実際に行動に移しやすい環境を整えた。

《モデル事業を終えての府馬地区の委員達の声》

- ・モデル事業をすることで、明らかに住民の認知症に対する関心度は変わった。事業の期間が終わっても継続的に呼びかけはしていったほうが良い。
- ・小学校との交流の機会を持った際に、グループホーム利用者の笑顔と小学生達からの優しい言葉のやりとりが忘れられない。とてもいい機会となっていた。取り組みをやってよかった。
- ・地区社協では80歳以上の方々の戸別訪問をしている。認知症の事業をしているので、お宅に伺った時も認知症というものを意識して、回るようになった。
- ・お店に認知症の方を介護している家族が来た時に、パンフレットを渡してあげたらとても喜んでいた。
- ・認知症の方を介護する家族は大変。特にお嫁さんはつらい状況に置かれていることが多い。個人的にできることとして、その夫が休みの日に、お嫁さんを自宅に呼んで、おしゃべりしながら気分転換させているようなことも始めた。

今後の課題：認知症サポーター養成講座を多くの場所で開催してきたが、受講者は高齢者が多かった。現役世代や職域にもさらに受講のアプローチをしていく。

会議の様子（右） →



【日下部ホームと地域の交流】

日下部ホームと地域住民・団体が催し等の開催により積極的に交流を図った。

日下部ホームと地域の交流

府馬保育園との交流



府馬小学校との交流



委員と一緒にチラシ配り



地域のお祭りとの交流



商店街(ムツミ会)との交流 サポーター養成講座の開催



太巻き作り



委員宅へのパンフレット設置

・住民の相談に少しでもアドバイスできるように。



地区外との交流もありました！



・その他
介護ボランティアの受け入れ 等

利用者も外にどんどん出ました！



(2) 地域資源マップ等の作成

モデル事業における地域支援体制構築事業の必須事業にあたる「地域資源マップの作成」については、まず、平成19年度に、香取市全体で幅広く役立てることを目的とした「香取市健康福祉介護マップ」を作成しました。そして、平成20年度、21年度は、香取市内の新宿地区、大倉地区、野田地区、府馬地区の4か所のモデル地区でのネットワーク構築・認知症の啓発等の手段としてのマップを作成しました。

【香取市健康福祉介護マップ】

- 対象者：全市民
- 掲載内容：医療機関・介護サービス事業所・障害者施設・相談窓口・行政機関
公共施設
- 配布時期等：平成20年4月に香取市内全世帯配布
- 工夫した点：医療・保健・福祉・介護の連携した情報を掲載

香取市健康福祉介護マップ

表面



(裏面) 医療機関・介護事業所等連絡先



折りたたんでA4サイズに！



【新宿地区認知症あんしんマップ】

- 掲載内容：認知症の基礎知識、認知症の方への接し方、地域で支えるネットワーク体制、地域の資源情報
- 特徴：認知症の知識の啓発とマニュアルとして使用できるものとした。
- 配布時期等：平成22年4月、新宿地区の全世帯へ配布。
- 苦労した点：支援会議で地域資源を考える際に、委員自身が支援する役割を担うという意識が強く、支援は出来ないという意見があった。その意識を変え、何かをするのではなく見守り・支え、情報を共有・つなぐことが必要であると理解を得ることが困難であった。
- 工夫をした点：ネットワーク以外にも認知症の基礎知識やサポーター養成講座などを載せ、認知症に対する知識と支援について周知啓発を図った。保管が容易であるようにまた、いつでも見ることが出来るように、中心に穴をあけ必要なページを掲示出来るようにした。
- 良かった点：認知症について知る機会をつくることができ、住民の意識に変化がみられるようになった。平成20年度に取り組んだ個人へのネットワークをもとに、地域の支援体制を検討・構築し掲載することが出来た。
- 今後の課題：認知症あんしんマップの周知と活用を行い、認知症を理解し協力してくれる人を増やし、さらに地域のつながりを持てるようにする。

新宿地区認知症あんしんマップ

(表)



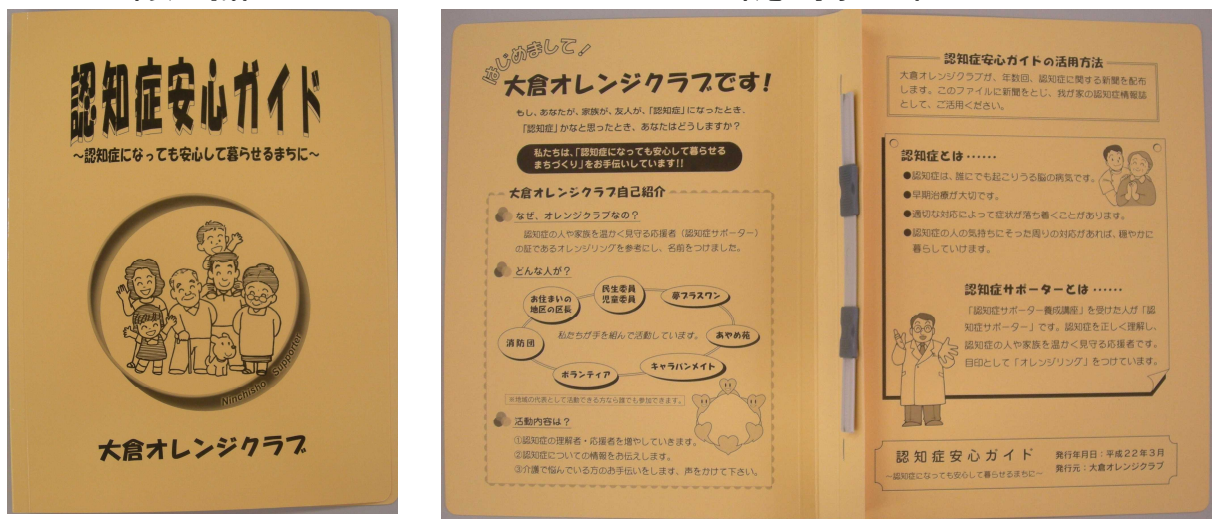
(裏)



【認知症安心ガイド（大倉地区）】

- 仕様：ファイルを各世帯に配布し、大倉オレンジクラブから新聞を年数回発行。その新聞をファイルに綴じ込んでいくことで、数年後「認知症安心ガイド」が出来上がる。
- 掲載内容：
 - ・大倉オレンジクラブ活動内容の紹介
 - ・認知症の基礎知識
 - ・地区の各種情報 等
- 特徴：情報を更新できる。
- 配布時期等：【ファイル】平成22年7月 【新聞】年2, 3回発行予定
- 苦労した点：高齢者も見やすいものにするため文字を大きくしたが、情報量が少なくなってしまった。
- 工夫した点：
 - ・新聞という形にすることで、リアルタイムな情報を知ることができる。毎回、目に触れるものとなる。
 - ・大倉の地域情報も含んだ新聞のため、「認知症」に身近でない住民にも興味を持ってもらえる。
- 今後の課題：継続した新聞の発行と認知症安心ガイドの有効活用

↓認知症安心ガイド。常に新しい情報をファイリング。(下) (表紙) (見開き)



(発行第1号の新聞はこのようになりました)



【野田地区認知症支援マップ】

○掲載内容：認知症支援会議委員（相談員）、地域包括支援センター、地区内介護施設、地区内各組代表、高齢者クラブ各組役員が連携し、認知症に関する相談を受ける体制。

○特徴：認知症の相談は身近な人なら言いやすいこともあれば、逆に言いづらいという場合もあるという意見も考慮し、行政、介護施設、支援会議委員、地区役員という幅広い窓口が協力した相談体制を構築できた。

地域の介護施設等の連絡先だけでなく、支援会議委員が相談員として、住所、電話番号等も公表している。

○配布時期等：平成21年5月上旬。野田地区の全世帯へ配布。

○苦労した点：認知症の相談を受けるということに対して、「本当に自分たちで出来るの？」と窓口になること自体を負担に感じる委員や地区役員がいた。

○工夫した点：

- ・マップ完成に向け、毎回の支援会議内で挙げた意見の内容を、目に見える形にして、会議に提示。毎回の会議で確実に1歩ずつ前進できるようにした。

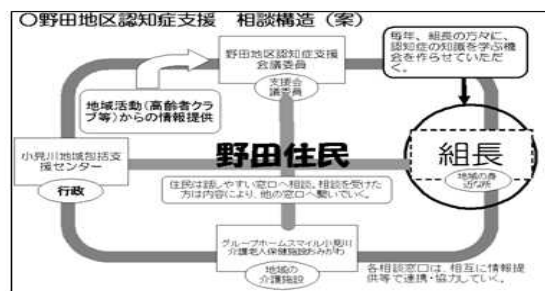
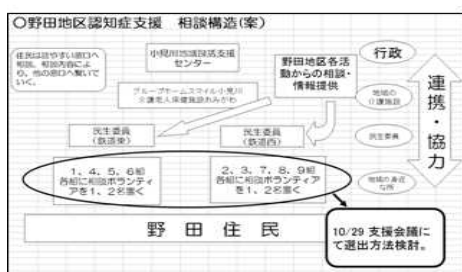
- ・相談体制を周知するため、地区内の全9組の常会（各世帯の代表が参加する会）に地区役員、民生委員、地域包括支援センターで出席し説明を行う。

- ・相談体制に毎年変わる地区役員を取り込むことで、認知症の知識を持った人が地域にどんどん増えていく形とした。

- ・各年に相談窓口となる地区役員（各組長・高齢者クラブ各組役員）は地域包括支援センターや民生委員相談員につなぐ役割とし、出来る範囲での協力を依頼した。

○今後の課題：この取り組みを継続していくには、毎年の地区役員や高齢者クラブ役員がきちんと引継ぎを行う必要がある。

**支援会議を重ねるなかで、
相談体制も徐々に形が出来上がってきました！**



野田地区認知症支援マップ

ついに完成！！

(表)

野田地区認知症相談窓口 (平成21年3月作成)

～野田地区が認知症を履さず気軽に相談できる地域に～

野田地区認知症支援協議会委員 (議員参画) 地域の役員さん

つちのおいちゃん認知症がもしも... 誰に相談すればいいの... 分からない...

つちのおいちゃん認知症がもしも... 誰に相談すればいいの... 分からない...

野田住民

○皆さんの地域の 組長さん ○高齢者クラブの役員さん 地域の身近なところで

小見川地域包括支援センター 行政

グループホームスマイル小見川 西80-0121 介護老人保健施設おみがわ 西80-1315 地域の施設

つちのおいちゃんが発見してはくばった段階の時に、つちのおいちゃんのご家族の皆さんに相談していただくのがいいです。

つちのおいちゃんが発見してはくばった段階の時に、つちのおいちゃんのご家族の皆さんに相談していただくのがいいです。

相談窓口の説明 ～野田地区は地域みんなで相談のっています～

- 認知症支援協議会委員
野田地区で認知症の支援事業を推進してきたメンバーです。地域の相談窓口の先生委員も含まれています。委員は今年も地域の相談窓口として活動します。
- 組長さん
地域の身近なところで後の窓口への情報提供となります。(毎年、新しく組長になられた方には認知症について学ぶ機会を設けています。)
- 高齢者クラブの各組の役員さん
役員さんと同時に地域の身近なところで後の窓口への情報提供となります。(毎年、新しい役員になられた方には認知症について学ぶ機会を設けています。)
- 地域の施設
グループホームスマイル小見川 (受付時間 9:00～20:30)
認知症の方が一緒に食んでいる施設です。職員の方々は認知症対応のプロです。気軽に相談できます。
【連絡先】 野田市野田14番地
グループホームスマイル小見川 野田14番地 西80-0121
介護老人保健施設おみがわ 小見川482番地 西80-1315

●問い合わせ先 香取市介護福祉課 小見川地域包括支援センター 西82-0718

(裏)



↓委員が地域住民への相談体制を説明した (下写真)



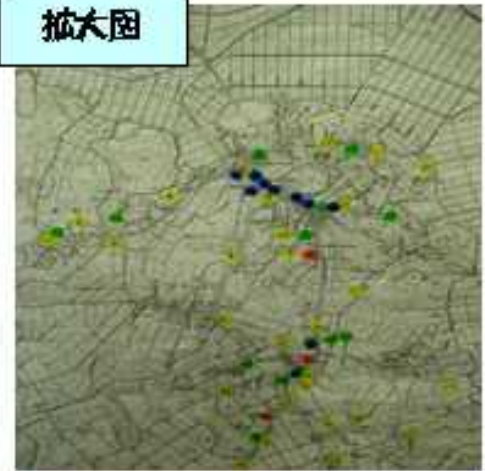
【府馬地区認知症支援マップ】

- 掲載内容：地区相談員、認定ステッカーを貼ったお店等、施設のボランティア、地区内の危険箇所
- 特徴：地区の相談員やサポーター養成講座を受けた人がいるお店など認知症支援の協力者がわかる内容となっている。
- 掲示時期等：平成21年3月 地区の拠点である日下部ホームの玄関に掲示
- 苦労した点：認知症対策の活動とマップ作成が結びつきにくかった。
- 工夫した点：平成20年に作成した段階では、危険箇所と相談場所のみの掲載であったが、認知症ステッカーを配布した店等の掲載を追加し、情報を追加できる形とした。
- 今後の課題：サポーター養成講座の積極的開催と認知症ステッカーを貼っていただける店等の拡大。

府馬地区認知症支援マップ



拡大図



ステッカー配布商店



ステッカーを貼っている商店の様子



(3) 地域支援のための基盤づくり

認知症の人やその家族を地域で支えていくためには、その地域の住民が、認知症について正しく理解し、偏見を持たず、そして、認知症は自分たちの問題であるという認識をもつことが最も重要です。そこで、認知症についての知識をさまざまな方に持っていただくため、各種の研修を開催し、地域支援のための基盤づくりについての取組みを実施しました。

【キャラバン・メイト養成研修の開催】

- 日 時：1回目：平成20年2月29日（57名養成）
2回目：平成21年1月20日（115名養成）
3回目：平成21年11月13日（フォローアップ研修・71名参加）
- 場 所：1回目：香取市中央公民館
2回目：山田公民館
3回目：香取市役所5階（フォローアップ研修）
- 講 師：1回目：介護老人施設じょうもんの郷施設長 助川未枝保
2回目：介護老人施設じょうもんの郷施設長 助川未枝保
3回目：千葉県立佐原病院 認知症看護認定看護師 村田純子
- 参加者：市主催キャラバン・メイト養成研修受講者

受講者要件	平成19年	平成20年	合計
	人数	人数	
認知症介護指導者養成研修	0	1	1
認知症介護実践リーダー研修	0	3	3
学校教育	0	1	1
行政	18	8	26
介護従事者	0	49	49
医療従事者	0	5	5
民生委員・母子福祉協力員	38	24	62
認知症モデル地域支援会議委員・ボランティア	1	24	25
計	57	115	172

その他県主催の研修で12名養成されている。

- 目的：認知症サポーターを増やすため、講師役であるキャラバン・メイトを養成する。
- 苦労した点：研修の目的を理解してもらうこと。自分の知識を増やすために受講するのではなく、講師役を引き受ける認識をしてもらうこと。
- 効果：サポーター数が増加した。
メイト数が増えた事で少人数の開催要望に即座に対応出来るようになった。キャラバン・メイトが数名で協力し合い講座を行うなど、積極的な開催への工夫がみられた。
- 工夫した点：
【メイト研修】
- ・地区ごとにグループ分けを行い、同じ地区のメイトとコミュニケーションが取れる基盤を作った。
 - ・全員の「派遣できる曜日・時間・範囲・交通手段・合同開催希望メイト名」を把握し、メイト派遣依頼がスムーズにできるようにした。
 - ・支援会議のメンバー・学校の教師等に積極的に受講を勧めた。
 - ・見学研修としてサポーター養成講座開催時に開催未経験のキャラバン・メイトの見学を受け入れた。
 - ・参加の便宜を図り、開催場所を年度ごとに変更した。
- 【フォローアップ研修】
- ・講座を開催することが重荷になっているメイトへ、テキストのどの部分を必ず押さえると良いか、肉付けはどこを行ったらよいかなど細かく伝えることで講座開催へのイメージが出来るようにした。
 - ・グループワークを行い、それぞれの活動報告を行ってもらい、既に講座を経験したメイトから、コツやヒントを得られる場にした。
 - ・医療との連携を考え地元の認知症認定看護師に講師を依頼した。
- 今後の課題：意欲の継続を図るための研修を行う必要がある。研修にサポーター養成講座の開催経験者の話を組み入れる。



(平成 21 年 11 月 13 日フォローアップ研修)

【認知症サポーター養成講座の開催】

○日時、場所、参加者数：

平成 18 年

番号	日付	団体	受講人数
1	H19.3.3	認知症タウンミーティング	485

平成 19 年 0名

平成 20 年

番号	日付	団体	受講人数
1	H20.6.10	山田地区民児協及び母子福祉協力員	27
2	H20.6.20	栗源区民生委員児童委員母子福祉協力員	19
3	H20.6.27	グループホームスマイル小見川職員	13
4	H20.7.6	小見川区木内地区住民	38
5	H20.7.13	小見川区分郷地区住民	50
6	H20.7.16	小見川区北区民生委員	5
7	H20.7.18	本宿民生委員・児童委員協議会	10
8	H20.9.19	入小若葉会 住民	53
9	H20.9.26	山田いきいき食育クラブ 住民	19
10	H20.10.23	府馬在郷高齢者クラブ 住民	52
11	H20.11.15	瑞穂民生委員	20
12	H20.11.12	長岡郷高齢者クラブ 住民	45
13	H20.12.4	新宿第一民生委員	13
14	H21.1.9	たんぽぽ配食サービスボランティア	19
15	H20.11.28	小見川高校 生徒・教諭	100
16	H20.2.17	家庭介護教室 住民	35
17	H20.2.13	新宿第二民生委員	3
18	H20.2.15	南四ツ塚高齢者クラブ 住民	36
19	H20.3.15	入小保内区住民	98
20	H20.3.8	古内区住民	28
		合計	683

平成 21 年

番号	日付	団体	受講人数
1	H21.6.10	小見川看護専門学校	33
2	H21.6.18	第三中学校	35
3	H21.6.23	配食ボランティアグループ	24
4	H21.6.27	大倉新田区	28
5	H21.7.4	大倉中郷地区	24
6	H21.7.7	佐原農協女性部	30
7	H21.7.15	佐原信用金庫	42
8	H21.7.17	大倉市神地区	12
9	H21.7.19	大倉丁子	27
10	H21.7.26	側高	14
12	H21.8.9	大倉水郷団地 3 班	14
13	H21.8.22	大倉丸峰	16
16	H21.9.6	大倉水郷団地6, 14班	20
14	H21.9.8	食生活改善推進員	54
17	H21.9.12	油田お茶会	33
15	H21.9.16	佐原水曜会	21
18	H21.10.18	大倉水郷団地12班	12
22	H21.10.25	旭日友の会	24
19	H21.10.27	福田小学校	25
21	H21.11.15	大倉水郷団地2班	8
20	H21.11.17	竟成小学校	30
23	H21.12.4	あやめ会	3
24	H21.12.6	大倉水郷団地 10班	7
25	H21.12.12	野田地区	26
27	H22.1.10	大倉水郷団地8	10
26	H22.1.25	母子福祉推進員	41
11	H22.2.5	東通り商店街	14
28	H22.2.21	大倉水郷団地1, 5班	10
29	H22.2.23	大倉小学校	35
30	H22.2.25	ひまわり苑(行政)	10
31	H22.3.7	大倉水郷団地 13 班	9
32	H22.3.16	府馬地区むつみ会	10
33	H22.3.18	認知症支援会議(新宿)	11
34	H22.3.28	野田 7 組	26
		合計	738

○目的・内容：「認知症サポーター養成講座」を受講し、認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族に対して温かく見守る応援者として、自分の出来る範囲の事をする人を育成する

○工夫した点：

- ・最少 5 名で受けられるよう配慮した。
- ・申込みが 1 名の場合も、他の開催日に来ていただくなど調整した。
- ・地域で見守りが必要なケースの対応を考慮しサポーターを登録性とした。
- ・施設を理解することも含めグループホーム等で開催した。

○効果：

- ・受講者からの意見で自分が認知症になったら、「専門家へ相談する、介護サービスを使う、家族とよく話し合う」、人が認知症になったら「見守ってあげたい。何か手助けしてあげたい。プライドを傷つけないよう受け入れたい」など前向きな意識変容につながった。

オレンジリングが目につくようになった。

○今後の課題：職域での養成

- ・認知症サポーターが意欲を継続し、具体的な活動をするきっかけとなる場の設定



信用金庫様

大倉丁子地区



大倉水郷団地

【学校での認知症サポーター養成講座の開催】

番号	日付	団 体 名	受講 (生徒)	受講 (教諭等)	受講 (合計)
1	H20.11.28	県立小見川高等学校	92	8	100
2	H21.6.10	小見川看護学校	31	2	33
3	H21.6.18	第三中学校(香西地区)	28	7	35
4	H21.10.27	福田小学校(香西地区)	25	0	25
5	H21.11.17	竟成小学校(香西地区)	30	0	30
6	H22.2.23	大倉小学校(大倉地区)	28	7	35
		合計	234	24	258

○目的及び内容：

目的：地域を支える児童・生徒へ、認知症サポーターの役割を担ってもらう。

偏見の無い状態で、正しい知識を伝え、人を支える・親切にするなど道徳観念を育てる。

内容：認知症サポーター養成講座 標準教材に準じ、認知症への理解・対応・サポーターの役割

○苦労した点：小学生は児童の目線になり、児童が理解できる内容と話し方、構成、資料の文字の大きさなどに苦労した。

○工夫した点：

- ・支援会議のメンバーやPTAを巻き込み、開催へむすびつけた。
- ・教諭を交えての事前打ち合わせを綿密にし、児童に合わせた内容・構成にした。
- ・メイト単独ではなく、行政、学校、生徒会と連携し開催した。
- ・小学生には1時間の構成で飽き予防、また理解を深めるよう脳を活用するゲーム、絵や寸劇などを取り入れた
- ・特別支援学級の児童も楽しめるよう教諭と協力し、配慮した。

○効果：認知症への理解が深まり、「優しくしてあげよう。」などの意見がほとんどの生徒から自然に発言が見られた。認知症への理解が深まった。

○今後の課題：サポーター養成研修を福祉教育の一環として実施



県立小見川高等学校



小見川看護学校



第三中学校



福田小学校



竟成小学校



児童からの感想文

○その他

小学校でのサポーター養成講座を企画したキャラバン・メイトが、小学生向けの認知症サポーター養成講座の媒体として紙芝居を作成した。

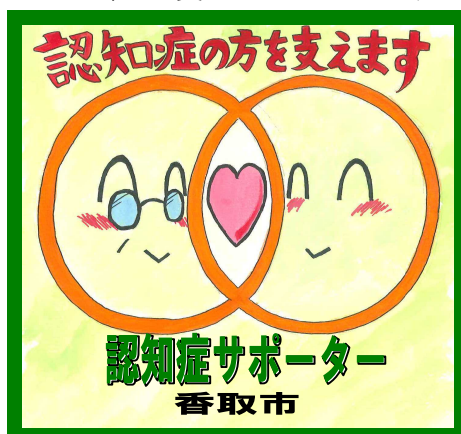
《ストーリー》

主人公の小学生男子は、祖母・父・母の4人暮らし。ある日祖母が、認知症と診断される。増える問題行動に、祖母と母が衝突し始めるが、周囲が対応を変えれば、問題行動が少なくなることを学んでゆく。全部で16枚



【認知症サポーターステッカーの作成・配布】

- 対象者：認知症サポーター養成講座終了後目的に賛同した人に配布
- 目的：サポーターの認知度を高め、より活動しやすい環境をつくる。
- 特徴：デザインの一般公募(サポーター養成研修受講の小学校・高校から応募があった)
- 配布時期等：平成 22 年 3 月 15 日から平成 22 年 3 月 30 日現在 179 枚配布
- 苦労した点：類似品がないか確認作業が大変だった。
- 工夫した点：
 - ・ステッカーを説明するためのポスターを作製し、啓発普及に努めた。
 - ・サポーター養成講座受講者名簿へステッカー配布者をチェックし、支援者として把握している。公用車にも貼付した。
- 効果：認知症の支援者の居場所が分かり、安心につながる。認知症サポーターが増加する。
- 今後の課題：ステッカーの認知度が広まっていくこと



【認知症の人のためのケアマネジメント・センター方式研修会の開催】

- 日時：(1回目) 平成 20 年 1 月 26 日
(2回目) 平成 20 年 2 月 20 日
(3回目) 平成 20 年 3 月 19 日
- 場所：(1回目) 小見川区 3 階多目的ホール

(2回目) 市役所 1階談話室

(3回目) 市役所 1階談話室

○参加者：(1回目) 73名 ケアマネおよびサービス事業所
(2回目) 71名 〃
(3回目) 71名 〃

合計 実—95名、 延べ—215名

○目的及び内容：

目 的：認知症高齢者ケアマネジメントの為のケアの課題を見極め（＝アセスメント）課題解決のための計画（＝ケアプラン）を作り、実践してみた結果を点検し、より良くしてゆく一連のシステム）の理解・普及を図り、認知症の人へのケアの質の向上を目指す。

内 容：①センター方式の基本シートの使い方
②センター方式の実践・利用者の理解
③ センター方式の実践 情報の整理と共有化

○苦勞した点：短い時間の中で、効率よく学べる構成にすること

○工夫した点：「認知症ケアを考える会」と市が共催

- ・ケース検討のグループが組める様配慮した。
- ・研修で取り上げた事例について、実際のケアに反映し次回で効果の確認・評価をした。

○効果：取り上げた事例で、問題行動の改善につながったケースが見られ、認知症への対応時、どの情報を収集すべきか、収集した情報の生かし方など実践できた。

○今後の課題：効果がすぐ出る事を実感できる方式研修だったが、業務量が大幅に増えるため、すぐ定着する事が出来ない様子が感じられた。業務に取り入れやすくするサポートが必要。

【かかりつけ医認知症対応力向上研修の開催】

○日 時：平成21年9月9日（水） 平成21年10月14日（水）

両日共に、19時から21時まで開催した。

○場 所：佐原准看護学校の講堂

○参加者：(参加者の内訳も一緒に) 10名内科医5名、外科医5名。

○目 的：認知症の相談先として身近なかかりつけ医への割合は高い。相談体制を充実し特に初期相談体制の充実

○苦勞した点：受講者が少なかったため、再度、受講のお知らせを医師会事務所にお願いをした。

○工夫した点：医師が参加しやすいよう、平日の診療後に2回に分けて開催した。

○今後の課題：香取市内の47医院、6病院の内、8人の医師が参加し、香取市以外からは2人の医師の参加が得られたが、全体で見ると少ないため、徐々に増やしていく。

(4) 認知症の人とその家族への支援ネットワーク

認知症の人を介護している家族は、絶望感、孤立感、不安感などを周囲の人に率直に話すことができない場合がある。そのような家族の気持ちを理解して、介護者の相談に乗ったり、本音を聞いたりする生きたネットワークをつくり、介護者の孤立を未然に防ぐ取り組みを行ったり、独居の認知症本人をどう支えていくかを地域支援会議のメンバーで話し合い、個人への支援ネットワークの構築を実施した。

【認知症家族のつどい】

- 日 時：奇数月 月末の水曜日 午後1時半～午後3時半
- 場 所：旧市町村単位で、市役所・区事務所の会場を順番に回る。
- 参加者：認知症の家族を介護している方
- 目的：同じ立場の人との交流を通して、介護知識および手技の取得、孤立予防、介護している上での不安、悩みの軽減。
- 苦労した点：
 - ・市民の中から声が上がり立ち上げた。市民と行政が協力して開催する上での役割分担の線引きが難しい。
 - ・広報から上がる人は少なく対象者の把握に苦慮した。
- 工夫した点：
 - ・自分たちの意見だけでなく、講師・ファシリテーターを年2回派遣してもらい専門的な助言をいただけるようにした。
 - ・参加しやすいよう会場を各区での開催にした。
 - ・親しみやすいよう「白ゆりの会」という愛称をつけた。
- 効果：
 - ・参加することで、鬱積していたストレスを発散できた。
 - ・仲間を得られたことで、「もう少し頑張ろう」など気持ちが前向きになった。
- 今後の課題：
 - ・介護者なので、運営について事務的なことを確保できる時間が取れない方が多い。その中でどう自主的な会に持ってゆけばよいか課題である。
 - ・白ゆりの会を知らない人も多いので、事業の定着に工夫が必要である。
 - ・家族間の連携した支援体制の構築
 - ・地域に密着したグループを構成し、交流を深められるよう支援する。

【個人への支援ネットワーク構築（新宿地区）】

佐原新宿地区は、個人への支援ネットワークを構築し、その輪をいくつも増やしていく方法で地区の支援体制を構築していく取り組みを行った。

○経緯：香取ネットが関わりを持っていたA氏についてケアマネから検討事例として提案があった。A氏の生活の改善と支援のために支援会議で検討することとなった。

○今後の課題：この対象の場合だけを考えていくのではなく、あらゆるケースに対応できるようなネットワークを構築する。

このケースをモデルとし、新宿地域の見守り体制の構築へと発展させていけるよう検討を重ねて行けたらよい。本人と家族が、安心して地域で暮らしてゆけるよう支援者の役割を明確にし、情報がタイムリーにやり取りできる連絡体制が必要。

【支援会議のメンバー】

主治医	民生委員
認知症サポート医	町内会
県立病院（地域連携室）	配食サービス
健康福祉センター	社会福祉協議会
香取市社会福祉課	中核地域生活支援センター
認知症コーディネーター	地域包括支援センター

(5) 啓発活動

多くの人に、少しでも認知症について関心を持ってもらえるよう、各種の啓発活動の取組みを実施しました。

【認知症メモリーウォーク・千葉 in 香取】

○日時：(平成20年度) 平成20年10月19日(日) 10時から

(平成21年度) 平成21年10月31日(土) 10時から

○場所(コース)：

(平成20年度) 佐原文化会館前→小野川沿い→駅前→佐原文化会館前
2.5 km

(平成21年度) 香取市役所前→小野川沿い→忠敬橋→千葉銀行前→香取市役所前 2.2 km

○参加者：(平成20年度) 145名 (平成21年度) 213名

○目的：認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる地域を目指し、認知症に対する偏見を取り払い、理解を深める。

○主催：(構成メンバーも含む) 認知症メモリーウォーク・千葉 in 香取実行委員会

認知症メモリーウォーク・千葉 in 香取実行委員会 委員名簿

平成21年度

役職	所属団体名等	役職等	氏名
会長	香取市地域密着型サービス連絡会	副代表	菊地民雄
副会長	香取市民生委員児童委員協議会連合会	会長	香取昭一
	(社)香取郡市医師会	理事	坂本文夫
	(社)香取歯科医師会	理事	鈴木憲治
	香取市高齢者クラブ連合会	副会長	大川進
	香取市ボランティア連絡協議会	会長	額賀勉
	香取市社会福祉協議会	介護福祉士	小倉洋子
	香取ネットワーク	コーディネーター	久保木真澄
	佐原商工会議所	事務局長	高城徳能
	香取市商工会	経営指導員	遠藤弘悦
	香取健康福祉センター 地域保健福祉課	保健師	田澤小百合
	香取広域市町村圏事務組合消防本部警防課	警防主任	金親幸一
	香取市認知症コーディネーター	コーディネーター	石井禎子
監事	佐原地域包括支援センター	所長	川尻達子
	小見川地域包括支援センター	所長	岡野あけみ
	千葉県健康福祉部高齢者福祉課在宅福祉推進室	主任主事	木口綾子
	香取郡市ケアマネージャー連絡会	会長	国谷シズエ
	ケアマネージャー連絡会	会長	鶴沢千代子
	香取認知症ケアを考える会	介護支援専門員	香取富美
事務局	グループホームスマイル	統括	斉藤実

認知症メモリーウォーク・千葉 in 香取実施要領

1 目 的

認知症になっても安心して暮らし続けられる地域づくりを目指し、認知症に対する偏見を取り払い、理解を深めるため、街頭啓発活動（メモリーウォーク）を行います。

2 事業内容

認知症に対する理解を深めるため、メモリーウォーク（パレード）を実施し、広く市民にアピールします。

(1) 日 時 平成 21 年 10 月 31 日 (土)

受 付 9:30 ～

開 会 10:00

出 発 10:20 ～ 12:00 解散

(2) コ ー ス 香取市役所 ～ 小野川沿い ～ 忠敬橋 ～ 風月堂 ～
千葉銀行 ～ 東京電力佐原営業所 ～ 香取市役所

(3) 参加予定者数 250人程度（スタッフ・関係者を含む。）

(4) 参加対象者 一般市民、認知症の人とその家族（介護者）、福祉・医療・保健関係者、
認知症関係施設職員

(5) 参加費 無料（保険料は、主催者負担）

(6) 雨天決行、荒天中止

認知症メモリーウォーク・千葉 in 香取実行委員会規約

(名 称)

第1条 本会は、認知症メモリーウォーク・千葉 in 香取実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称します。

(目 的)

第2条 実行委員会は、認知症に対する偏見を取り払い、認知症に対する理解を深めるため、街頭啓発活動（以下「メモリーウォーク」という。）を関係機関と連携しながら円滑に実施することを目的とします。

(事 業)

第3条 実行委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行います。

(1) メモリーウォークの実施計画の策定及びその実施等に関すること。

(2) 前号に掲げるもののほか、前条の目的を達成するため必要な事項

(組 織)

第4条 実行委員会は、第2条の目的に賛同する団体等の代表者や個人をもって構成します。

(委員の任期)

第5条 委員の任期は、実行委員会設立の日から解散の日までとします。

(役 員)

第6条 実行委員会に、次の役員を置きます。

(1) 委員長 1名

(2) 副委員長 1名

(3) 監 事 1名

2 委員長は、委員の互選により選出します。

3 その他の役員は、委員のうちから委員長が指名し、実行委員会の承認を得ることとします。

(役員の仕事)

第7条 委員長は実行委員会を代表し、会務を総理します。

2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理します。

3 監事は、実行委員会の会計を監査します。

(会議)

第8条 実行委員会の会議は、委員長が招集し、委員長はその議長となります。

2 会議の議事は、出席者の過半数で決定し、可否同数のときは、委員長が決するところとします。

(事務局)

第9条 実行委員会の事務を処理するために、事務局をグループホームスマイルに置きます。

(その他)

第10条 本規約に定めるもののほか、実行委員会の運営に関し、必要な事項は、委員長が別に定めます。

附 則 本規約は、平成21年8月10日から施行します。

○苦勞した点：市内のウォーキングクラブに、認知症サポーター養成講座の受講を勧めその後メモリーウォークの参加を募ったり、コース中にある金融業者や電力会社にメモリーウォークの趣旨を説明しながらパンフレットを置いてもらい、一般の参加を募った。（認知症サポーター養成講座を受講した業者もあった。）

○工夫した点：認知症の啓発活動の色であるオレンジ色のバンダナを、皆で首に巻き、車椅子の参加者21名と共に、一体感を持ち行進をした。

○今後の課題：認知症の理解がもっと地域に行き渡るよう、歩く地域を変えたり、一般の参加者にPRを行いながら、参加者を増やしていく。



↑江戸情緒あふれる小野川沿いを皆でゆっくり楽しく歩いた



認知症でも安心な千葉に！！

↑千葉国体のマスコットキャラクター「チーバくん」と一緒に記念撮影

【香取のふるさとまつりにてPR活動実施】

- 目的：市民の認知症に対する正しい理解とモデル地域としての活動の普及啓発および地域包括支援センターのPRを行う。
- 特徴：年1回各区で開催されるふるさとまつりのため、地元の住民やボランティアの参加も多く大勢の方にPRがしやすい。
地域包括支援センターのPRもできた。その場で認知症の対応についての相談もあった。
- 配布時期等：平成21年11月 3日（祝）山田ふれあいまつり
平成21年11月 8日（日）水郷おみがわふるさとまつり
平成21年11月15日（日）栗源のふるさといも祭
平成21年11月22日（日）ふるさとフェスタさわら
- 工夫した点：平成19年度～21年度にかけて行った活動と認知症について、実際の写真を用いながらまとめたチラシを作成した。
- 今後の課題：支援会議委員や協力者および認知症の人とその家族も参加していただけるような活動にしていく必要がある。

認知症になっても安心して暮らせるまちへ

～住み慣れた地域で安心して暮らしたい～

香取市では、平成19年度から平成21年度にかけて、「認知症地域支援体制構築モデル事業」を実施しています！！

①サポーター養成講座

認知症の方を暖かく見守る方を地域で増やしていく為に、認知症の知識や対応を学ぶ1時間程度講座を開催しています！！



④モデル地区での活動

市内の5地区をモデル地区に選定。各地域で認知症支援の取り組みを考えて、実行しています！！

- ・野田地区・・・地域・施設・行政が連携した相談体制づくり
- ・府尾地区・・・拠点から始まる認知症支援の地域づくり
- ・新宿地区・・・個人を支える地域のネットワークづくり
- ・大倉地区・・・認知症サポーターが支える地域のネットワーク
- ・住金団地・・・地域での徘徊SOSネットワークの構築

市全体として、認知症への理解を深め「つながり」あるまちになることで、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるような様々な取組を行っています。

②認知症家族のつどい(白ゆりの会)

香取市でも認知症の人を介護するご家族を対象に交流会が立ち上がりました。介護の悩みを話し合ったり介護技術の情報交換を行い、お互いを助け合う場となっています。

⑤センター方式の勉強会

香取市の介護サービスに関わる専門職の方々が、認知症の方へのケアの向上を目指し、講習に参加しました！！



③メモリーウォーク

認知症への関心と理解を深めるため、街頭啓発活動として市内をみんなで歩きました！！



⑥健康福祉介護マップの作成

香取市内の医療機関、介護サービス事業所、障害者福祉施設を一覧にして、各戸へ配布を行いました。



※認知症とは・・・以前は「痴呆」「ボケ」と言われていた病気で、平成16年12月に「認知症」に呼び名が変更になりました。現在は高齢者世帯の7世帯に1人が認知症患者がいると言われています。

(問い合わせ)
 香取市 介護福祉課
 ・佐原地域包括支援センター 電話(60)1231
 ・小見川地域包括支援センター 電話(62)0718

【認知症よろず相談窓口の設置】

- 目的：認知症について地域のより身近なところで相談できる窓口を設ける。
施設と地域の交流が図れる。
- 特徴：認知症よろず相談窓口とグループホームの紹介を兼ねたポスターを公共機関や郵便局、スーパー等に掲示し、周知していく。
- 配布時期等：平成22年3月
- 工夫した点：地域密着型サービス連絡会においてモデル事業の活動について説明し、窓口設置を依頼。各グループホームから意見を頂き、認知症の方とその家族だけでなく地域に根付いた施設となっていけるよう分かりやすい周知方法を検討した。
- 今後の課題：相談窓口の需要が増えるよう周知していく。

認知症よろず相談

もの忘れや介護の方法など、認知症に関する相談を行っています。

- ・「気になることがある…」
- ・「どのように介護すればいいかわからない」など

認知症に関することならどんなことでも構いません。一人でかかえこまずに、まずは相談してください。

お問い合わせ：電話相談、面接相談、見学を行っています。
開放日が決まっていたり、予約が必要なこともありますので各グループホームへお電話ください。

グループホームってなに？

「認知症の方が、家庭的で落ち着いた雰囲気の中で共同で生活する」住宅です。利用者は5～9人と少人数を単位としており、食事の支度や掃除、洗濯などスタッフが利用者と一緒にいき、認知症の進行を穏やかにし、その人らしく生活が送れるようお手伝いします。

※グループホーム（認知症対応型共同生活介護）は地域密着型サービスです。
香取市のグループホームは、香取市にお住まいの方のためのサービスです。

職員は、認知症の方のお世話の専門家です。
そして、認知症の方とそのご家族の良き理解者です。

認知症の方のための住宅です

あんじん	佐原イ1681	55-0094
スマイル	佐原イ1689-2	55-8655
じゅらく	佐原ホ323-2	52-0232
松風	津宮1932-1	50-5680
すこやかさん	与倉869-1	58-0505
あすなろ	玉造483-2	55-8817
いきいきの家くりもと	高萩字井戸田765-1	70-5051
たすけあい	岩部1095-1	75-1056
社の家	岩部869-60	70-5665
香取の杜 中々	小見川5598-1	80-4030
スマイル小見川	野田714	80-0121
日下部	府馬3490-1	78-1151
山里	新里1182-12	70-8156

地域包括支援センター

- 佐原 佐原口2127 ☎50-1231
- 小見川 羽根川88 ☎82-0718

発行：香取市地域包括支援センター
編集：香取市地域密着型サービス連絡会

(6) 認知症予防活動

【野田地区お楽しみ会の開催】

- 日時：(平成20年度) 平成21年2月17日(火) 13:30～15:30
(平成21年度) 平成22年2月16日(火) 13:30～15:30
- 場所：(平成20年度) 野田青年館
(平成21年度) 野田青年館
- 参加者： 地区内の70歳以上の高齢者
- 目的： 認知症予防を目的とした高齢者の集いの開催
- 主催： (構成メンバーも含む) 野田地区、支援会議一同
- 募集方法： 地区内回覧、高齢者クラブ役員による呼びかけ
- 工夫した点
 - ・1年目の参加者が主に高齢者クラブの会員であった反省から、2年目は他の一般高齢者の参加者数増加を目指し、募集方法を修正。(高齢者クラブの呼びかけの他に、区内回覧を行うチラシに参加希望者が記入できる名簿を添付する。)参加者に写真を配布するとき支援体制の組織を活用し配布した。
 - ・会の内容に地域の介護施設の職員から認知症等の知識を学ぶ機会を取り込む。(1年目はグループホームスマイル小見川、2年目は介護老人保健施設おみがわ) 両施設が地区活動に協力をしたことは、地域と施設の交流を図れた以外にも、認知症の相談窓口としての機能の啓発にもつながった。
- 今後の課題： モデル事業終了後の開催計画。

募集のチラシ


**野田地区 お年寄りのつとめ
お楽しみ会の開催のお知らせ**

野田区長 荒井 信雄
高齢者クラブ会長 石橋 誠平
共催：野田地区認知症支援会議委員
香取市小見川地域包括支援センター

厳しい寒さの日々が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。
さて、この度、下記の日程でお楽しみ会を開催することになりました。
今回のお楽しみ会では、現在野田地区において認知症支援のモデル事業を展開していることもあり、認知症予防の内容等も組み入れていきたいと思っております。皆様の参加をお待ちしております。

記

1. 期 日 平成21年2月17日(火)
午後1時30分～3時30分
2. 場 所 野田青年館
3. 対象者 70歳以上の方
4. 内 容 認知症の予防体操・ゲーム等を考えています。



準備の都合上、参加を希望する方は
2月10日(火)までに 各組の高
齢者クラブの役員さんへお申し込み
下さい。

(当日の様子)



【野田地区ウォーキングコースの作成】

○内容

野田地区の予防活動の第2弾として、認知症予防を目的としたウォーキングコースを支援会議にて作成。

○方法

実際に野田地区認知症支援会議委員が直接歩いて、距離や歩数を計測した。

※作成途中にも、地域の方が「今日は何してるんだ？」と声をかけてくれたりと、取り組みに興味を示してくれる住民の様子もあった。

【作成の様子】



【ウォーキングコース完成版】



○周知の方法

- ・お楽しみ会の出席者に広報部隊を依頼。
- ・地区の集会所である青年館にパネルの設置をした。

(お楽しみ会での説明)



(青年館への掲示)



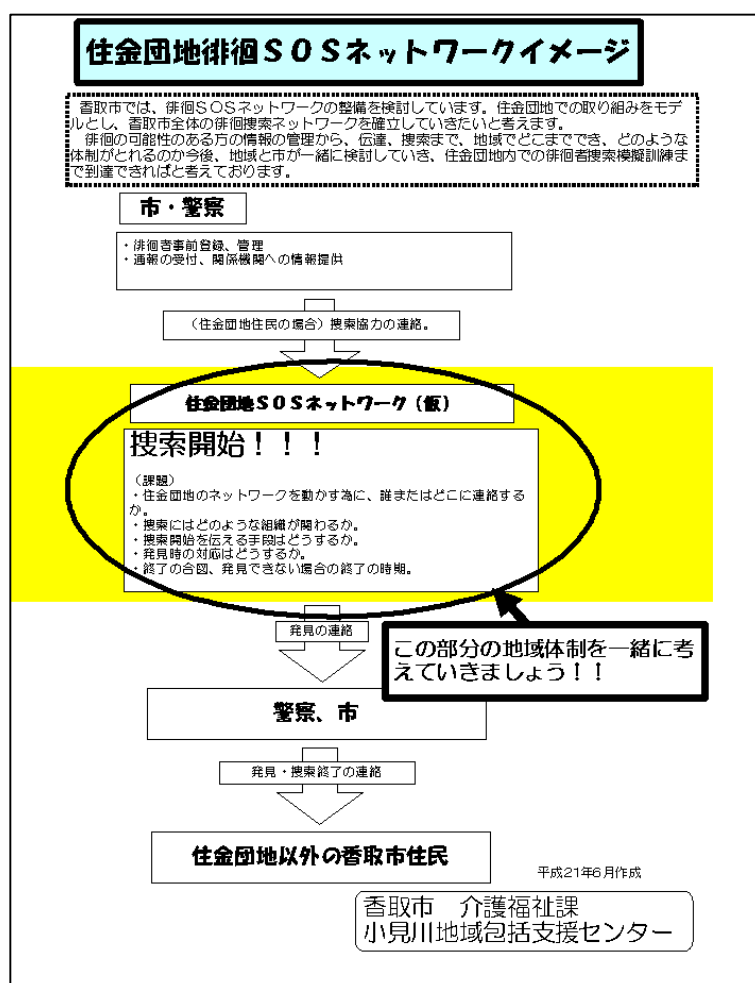
(7) 徘徊 SOS ネットワークへの取り組み～住金団地をモデル地区に～

○経緯：自治会長、民生委員から市へ「住金団地でも認知症対策の取り組みを行いたい。」と依頼あり。住民に刺激を与える意味でもモデル地区としての選定の希望がある。他のモデル地区でも行えていない、「徘徊 SOS ネットワーク構築」についてのモデル地区であればという条件つきで選定となる。

○現状：民生委員が中心となり、この取り組みに協力してもらえる住民を集め、第1回の会議を終了。来年度は自治会も巻き込み地域を上げて取り組める体制を目指し、調整中。

○地区内で行方不明者が発生（実践の機会）

先日、地区内で行方不明者が発生。構築中の段階で可能な限り協力者を集め、捜索を実行。様々な反省点も見つかり、平成22年度の完成に向けての貴重な検討材料となる。



3. 年度別事業実績

(1) 平成19年度の活動報告

事業名	事業内容
コーディネーターの設置	1名 設置
香取市認知症対策推進会議の設置	香取市認知症対策推進会議設置要領を平成19年12月1日に制定 18名に委員を委嘱 香取郡市医師会を始め各関係機関等から推薦をいただいた。
地域資源マップの作成	市域全体の介護・医療・福祉関係の事業者や機関のマップを作成 38,000部 市民各戸配布 29,000部 窓口配布市役所 5,000部 事業所 2,000部 公共施設 2,000部
認知症啓発事業	認知症啓発用パンフレット購入 「認知症知識啓発小冊子：認知症でも大丈夫」 600部 「認知症知識啓発小冊子：高齢者の尊厳を守りましょう」 600部
地域支援のための基盤づくり (認知症キャラバン・メイトや 認知症サポーターの養成)	キャラバン・メイト養成研修会の開催 (目的) 地域で暮らす認知症の人やその家族を応援する「認知症サポーター」をつくる「認知症サポーター養成講座」の講師役「キャラバン・メイト」を養成する。 開催日 平成20年2月29日 場 所 佐原中央公民会視聴覚室 参加者数 57人 (参加者の内訳) ・民生委員児童委員 27人 ・母子福祉協力員 11人 ・消費生活相談員 1人 ・市健康福祉担当部局職員 18人
地域支援のための基盤づくり (センター方式の導入促進)	センター方式研修会を開催 【第1回】「センター方式の基本：シートの使い方」 開催日 平成20年1月26日 9:30~16:30 場 所 小見川区事務所 3階多目的ホール 参加者 54人 【第2回】「センター方式の実践：利用者の理解」 開催日 平成20年2月20日 18:00~20:30 場 所 香取市役所 1階談話室 参加者 47人 【第3回】「センター方式の実践：情報の整理と共有化」 開催日 平成20年3月19日 18:00~20:30 場 所 香取市役所 1階談話室 参加者 47人 実参加者数 66人 延参加者数 148人

【香取市認知症対策推進会議のメンバー構成】

	所 属	役 職	氏 名
1	(社) 香取郡市医師会	理 事	坂 本 文 夫
2	(社) 佐原市香取郡歯科医師会	会 長	小 林 操
3	香取郡市薬剤師会	会 長	小 川 裕 好
4	香取市民生委員児童委員協議会連合会	会 長	香 取 昭 一
5	香取市高齢者クラブ連合会	会 長	菅 谷 長 蔵
6	香取市社会福祉協議会	事務局長	櫻 井 武 雄
7	香取市行政協力員連絡協議会	会 長	尾 方 忠 志
8	香取市グループホーム連絡会	副代表	菊 池 民 雄
9	香取ネットワーク	所 長	高 木 美 枝 子
10	香取市ボランティア連絡協議会	会 長	篠 塚 俊 子
11	佐原商工会議所	事務局長	高 木 徳 能
12	香取市商工会	事務局長	菅 谷 博
13	香取警察署	生活安全課長	笹 本 康 彦
14	香取健康福祉センター	地域保健福祉 課長	向 後 恵 子
15	香取市消防団	団 長	木 内 幸 雄
16	香取広域市町村圏事務組合消防本部	警防課長	渡 辺 喜 一
17	香取市役所	健康福祉部長	高 木 茂

香取市認知症対策推進会議設置要領

(設置)

第1条 市は、認知症の人が尊厳を持って地域で暮らし続けることを支援するため、香取市認知症対策推進会議（以下「推進会議」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 推進会議は、次の各号に掲げる事項について協議する。

- (1) 認知症対策に関する具体的な方策に関すること。
- (2) 認知症対策事業の円滑な実施及びその成果の評価等に関すること。
- (3) 前各号に掲げるものほか、認知症対策の推進に必要と認められる事項に関すること。

(委員)

第3条 推進会議の委員（以下「委員」という。）は20人以内とし、次に掲げる者のうちから市長が委嘱し、又は任命する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 関係団体を代表する者
- (3) 関係行政機関の職員
- (4) 前各号に掲げるものほか、市長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長)

第5条 推進会議に会長を置き、委員の中から互選するものとする。

- 2 会長は、会務を総理し、推進会議を代表する。
- 3 会長に事故があるときは、あらかじめ会長の指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第6条 推進会議の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集し、その議長となる。

- 2 会議の運営について必要な事項は、会長がその都度会議に諮って定める。
- 3 会議において必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(報償)

第7条 委員が会議に出席したときは、予算の定めるところにより報償金を支払うものとする。

- 2 推進会議の求めに応じ、会議に出席した者に対しては、予算の定めるところにより報償金を支払うものとする。
- 3 前2項の規定に関わらず、公務で会議に出席した公務員又はそれに準ずる者に対しては、報償金は支払わないものとする。

(市の情報提供)

第8条 市は、推進会議がその任務を遂行するために、推進会議に必要な情報を提供しなければならない。ただし、当該情報が、香取市情報公開条例（平成18年香取市条例第15号）第8条各号の規定に該当するものである場合には、この限りではない。

(庶務)

第9条 推進会議の庶務は、市長の定める機関において処理する。

(その他)

第 10 条 この要領に定めるもののほか、推進会議の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要領は、平成 19 年 12 月 1 日から施行する。

(2) 平成 20 年度の活動報告
【市内全体での取組み状況】

事業名	事業内容
コーディネーターの設置	市全体のコーディネーター1名のほか、4地区の内、2地区(野田・府馬地区)にコーディネーターを配置した。
香取市の認知症施策に係る評価・支援 (香取市認知症対策推進会議の開催)	モデル事業の推進と香取市の認知症対策を検討するため、香取市認知症対策推進会議を開催した。 ●第1回香取市認知症対策推進会議の開催 平成20年7月29日
ビジョン・計画	『高齢者保健福祉計画・第4次介護保険事業計画』の中に、認知症地域支援体制構築事業を盛り込んだ。 目標:「認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくり」
認知症の人及び家族への支援	●認知症家族のつどい(出前交流会)の開催 平成20年10月15日 参加者:17人 ⇒香取市で組織化された。家族会「白ゆりの会」
認知症啓発事業	●『認知症メモリーウォーク・千葉 in 香取』の開催 平成20年10月19日 参加者:145人(男性49人、女性96人) 実行委員会の設置:19人 実行委員会の開催:全4回 ●認知症啓発用パンフレット購入 「認知症についてあなたは正しく理解していますか」 3,400部 「認知症を予防するテクニック30」 400部 「認知症を正しく知ろう」 400部 「認知症でも大丈夫」 600部
地域支援のための基盤づくり (認知症キャラバン・メイトや認知症サポーターの養成)	●キャラバン・メイト養成研修会の開催 平成21年1月20日 参加者:115人 ●認知症サポーター養成研修会の開催 開催回数:20回 参加者:延べ754人
地域支援のための基盤づくり (センター方式の導入促進)	●第1回ケアマネージャー勉強会の開催 開催日平成20年12月9日 参加者:32人 ●第2回ケアマネージャー勉強会の開催 開催日:平成21年1月14日 参加者:22人 「本人支援マップ」への情報の落とし込み作業により、地域のインフォーマル資源の発掘を行った。
地域見守りネットワーク	『香取市見守りネットワーク事業』との連携 香取地見守りネットワーク事業(平成20年12月1日施行) (目的) 援護を要する高齢者及び障害者が、慣れ親しんだ地域において自立し、安心した生活を送るため行政と関係機関が地域との連携によるネットワークを形成し、地域全体で要援護者を見守る体制を確立するとともに、虐待及び徘徊等による事故の防止並びに災害等緊急事態の支援に備える。 ⇒地区内の相談ルートの検討にあたり、本事業をうまく活用した取組みになるよう留意した。

【各地区での主な取組み状況】 ※各地区にコーディネーターを設置

大倉地区	佐原新宿地区	野田地区	府馬地区
大倉地区社会福祉協議会 (H20. 5. 22) 大倉地区区長会 (H20. 7. 12) 津宮・大倉地区民生委員児童委員協議会 (H20. 7. 15) 大倉水郷団地班長会議 (H20. 9. 6) <u>第1回地域支援会議</u> (H20. 9. 9) <u>第2回地域支援会議</u> (H20. 10. 9) <u>第3回地域支援会議</u> (H20. 11. 14) 巡回認知症講座 (配食サービス) (11名) (H20. 12. 4) 巡回認知症講座 (大倉新田地区) (30名) (H20. 12. 9) <u>第4回地域支援会議</u> (H20. 12. 21) 巡回認知症講座 (市神地区) (H20. 12. 21) 巡回認知症講座 (大倉丁子地区) (約25名) (H21. 1. 25) 巡回認知症講座 (中郷・本西地区) (約10名) (H21. 2. 14) <u>第5回地域支援会議</u> (H21. 3. 10) 巡回認知症講座 (今市地区) (25名) (H21. 3. 14) 巡回認知所講座 (大倉新田) (13名) (H21. 3. 14) 巡回認知症講座 (丸峰地区) (30名) (H21. 3. 15) 巡回認知症講座 (消防団) (40名)	佐原新宿地区社会福祉協議会 (H20. 5. 21) 佐原地区民生委員児童委員協議会 (H20. 6. 13) <u>第1回地域支援会議</u> (H20. 11. 27) 第1回ケアマネジャー勉強会 (H20. 12. 9) 第2回ケアマネジャー勉強会 (H21. 1. 14) <u>第2回地域支援会議</u> (H21. 1. 29) <u>第3回地域支援会議</u> (H21. 3. 10) <u>第1回地域支援会議</u> (H21. 7. 23) <u>第2回地域支援会議</u> (H21. 9. 4) <u>第3回地域支援会議</u> (H21. 10. 27) <u>第4回地域支援会議</u> (H21. 12. 10) <u>第5回地域支援会議</u> (H22. 1. 28) サポーター養成講座 (東通り商店会) (H22. 2. 5) <u>第7回地域支援会議</u> (H22. 3. 18) サポーター養成講座 12名	<u>第1回地域支援会議</u> (H20. 7. 1) 地区コーディネーター打合せ (H20. 8. 5) (野田・府馬両地区のコーディネーターと小見川地域包括支援センター職員との打合せ) アンケート調査実施 (⇒8/19回収) <u>第2回地域支援会議</u> (H20. 8. 19) ※野田・府馬地区合同開催 (香取市コーディネーターによる認知症の正しい理解のための講座を中心に実施) <u>第3回地域支援会議</u> (H20. 9. 17) <u>第4回地域支援会議</u> (H20. 10. 29) ※支援会議の前にG Hと老健の視察を実施。 H20. 11. 9 モデル事業を地区住民に周知 (全戸に説明資料を配布) 認知症サポーター養成講座 (小見川高校) (H20. 11. 28) <u>第5回地域支援会議</u> (H20. 12. 18) H21. 2. 17 お楽しみ会開催 <u>第6回地域支援会議</u> (H21. 3. 24)	サポーター養成講座 (山田区民生委員・児童委員・母子福祉協力員協議会) (27名) (H20. 6. 10) <u>第1回地域支援会議</u> (H20. 7. 10) サポーター養成講座 (入小保内若葉会・南八軒町高齢者クラブ) (53名) (H20. 9. 19) <u>第3回地域支援会議</u> (H20. 9. 25) サポーター養成講座 (山田いきいき食育クラブ・食生活改善推進員) (19名) (H20. 9. 26) サポーター養成講座 (在郷高齢者クラブ・大倉水郷シニアクラブ) (52名) (H20. 10. 23) サポーター養成講座 (長岡郷高齢者クラブ) (45名) (H20. 11. 12) <u>第4回地域支援会議</u> (H20. 12. 10) <u>第5回地域支援会議</u> (H21. 1. 27) サポーター養成講座 (南四ツ塚高齢者クラブ) (36名) (H21. 2. 15) H21. 3. 2 地区内のグループホームで太巻きづくり サポーター養成講座 (古内区) (H21. 3. 8) サポーター養成講座 (入小保内区) (H21. 3. 15) <u>第6回地域支援会議</u> (H21. 3. 26)

<p>(H21. 4. 5) <u>新旧区長会</u> (H21. 4. 5) <u>巡回認知症講座</u> (中郷地区) (80名) (H21. 4. 6) <u>第6回地域支援会議</u> (H21. 5. 26) <u>水郷団地役員打ち合わせ</u> (H21. 6. 25) <u>サホ-タ-養成講座</u> (大倉新田地区) (38名) (H21. 6. 27) <u>サホ-タ-養成講座</u> (中郷地区) (24名) (H21. 7. 4) <u>サホ-タ-養成講座</u> (市神地区) (12名) (H21. 7. 17) <u>サホ-タ-養成講座</u> (大倉丁子地区) (27名) (H21. 7. 19) <u>サホ-タ-養成講座</u> (側高地区) (14名) (H21. 7. 26) <u>サホ-タ-養成講座</u> (水郷団地3班) (14名) (H21. 8. 9) <u>サホ-タ-養成講座</u> (丸峰地区) (16名) (H21. 8. 22) <u>サホ-タ-養成講座</u> (水郷団地6・14班) (20名) (H21. 9. 6) <u>第7回地域支援会議</u> (H21. 9. 18) <u>サホ-タ-養成講座</u> (水郷団地12班) (12名) (H21. 10. 18) <u>第8回地域支援会議</u> (H21. 10. 20) <u>サホ-タ-養成講座</u> (水郷団地2班) (8名) (H21. 11. 15) <u>サホ-タ-養成講座</u> (水郷団地6・14班) (名) (H21. 9. 6) <u>第9回地域支援会議</u> (H21. 11. 24) <u>サホ-タ-養成講座</u> (水郷団地10班) (7名) (H21. 12. 6)</p>		<p>H21. 5月上旬 <u>支援マップ各戸配布</u></p> <p>H21. 6月～8月 <u>常会1組～9組(7組を除く)に出席し、相談体制の周知を行う。</u></p> <p><u>第1回地域支援会議</u> (H21. 9. 3)</p> <p><u>サホ-タ-養成講座</u> <u>(野田地区住民)</u> (H21. 12. 12)</p> <p><u>第2回地域支援会議</u> (H21. 12. 18)</p> <p>H22. 2. 16 <u>お楽しみ会開催</u></p> <p><u>第3回地域支援会議</u> (H22. 3. 26)</p> <p><u>サホ-タ-養成講座・</u> <u>相談体制周知</u> <u>(野田地区7組住民)</u> (H22. 3. 28)</p>	<p>H21. 5. 29 府馬地区コーディネーター打合わせ</p> <p><u>コーディネーターとともに全委員宅戸別訪問。意見交換。</u></p> <p><u>第1回地域支援会議</u> (H21. 6. 25)</p> <p><u>日下部ホームと地域との交流の実行期間</u></p> <p><u>第2回地域支援会議</u> (H22. 3. 24)</p>
--	--	--	---

<p>大倉区長会 (H22. 1. 9)</p> <p><u>サホ-タ-養成講座</u> (水郷団地 8 班) (10 名) (H22. 1. 10)</p> <p><u>第 1 0 回地域支援会議</u> (H22. 1. 29)</p> <p><u>第 1 1 回地域支援会議</u> (H22. 2. 19)</p> <p><u>サホ-タ-養成講座</u> (水郷団地 1・5 班) (10 名) (H22. 2. 21)</p> <p><u>サホ-タ-養成講座</u> (大倉小学校) (35 名) (H22. 2. 23)</p> <p><u>サホ-タ-養成講座</u> (水郷団地 13 班) (9 名) (H22. 3. 7)</p> <p><u>第 1 2 回地域支援会議</u> (H22. 3. 8)</p>			
--	--	--	--

【各地区地域支援会議メンバー構成】

大倉地区	佐原新宿地区	野田地区	府馬地区
<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員児童委員(6) ・区長(2) ・区長会長 ・主任児童委員(2) ・母子福祉協力員(2) ・福祉施設関係 ・交通安全協会分会長 ・保護司 ・青少年相談員 ・子供会大倉連合会長 ・ボランティア代表 ・地区社協相談役 ・看護師 <p>⇒第2回会議からさらに参加者が増えました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校PTA会長 ・区長(7) (全10地区の残7区) ・消防団(5) ・青少年相談員 	<ul style="list-style-type: none"> ・主治医 ・認知症サポート医 ・県立病院 (地域連携室) ・健康福祉センター ・香取市社会福祉課 ・民生委員 ・町内会 ・社会福祉協議会 ・中核地域 生活支援センター <p><平成21年度改正></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポート医 ・民生委員(2) ・行政協力員(2) ・高齢者クラブ代表 ・地区社協代表 ・認知症家族会代表 ・消防団代表 ・商工会議所 ・商店会連合会 ・商工会議所青年部 ・ボランティア代表 (2) ・ケアマネージャー代表 ・グループホーム代表 ・認知症コーディネーター 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員 ・行政協力員 ・中央地区社協代表 ・高齢者クラブ代表 ・母子福祉協力員 ・住職(寺) ・学識経験者 ・食生活改善員 ・ボランティア代表 ・家族代表 ・医師 ・施設関係 ・グループホーム相談員 (地区コーディネーター) ・警察 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員 ・母子福祉協力員 ・府馬区長 ・学識経験者 ・高齢者クラブ連合会 理事 ・商店会の代表 ・ボランティア(4) ・消防団 ・警察 ・医師 ・介護保険施設関係者 ・グループホーム管理者 (地区コーディネーター)

(3) 平成 21 年度の活動報告

【市内全体での取組み状況】

事業名	事業内容
香取市の認知症施策に係る 評価・支援 (香取市認知症対策推進会議 の設置)	モデル事業の推進と香取市の認知症対策を検討するため、香取市認知症対策推進会議を開催する。 ●第1回香取市認知症対策推進会議の開催 平成21年8月4日 ～平成20年度の事業報告・21年度の事業計画について～ ●第2回会議(年度末に開催予定) 平成21年度事業報告及び評価
認知症の人及び家族への支援	●家族会「白ゆりの会」の継続 自主的な活動ができるよう支援
認知症啓発事業	●『認知症メモリーウォーク・千葉 in 香取』の開催 平成21年10月31日開催予定 ●講演会『認知症の最新の医療とケアについて』
地域支援のための基盤づくり (かかりつけ医の研修)	●市内のかかりつけ医を対象にサポート医による研修会を開催
地域支援のための基盤づくり (認知症キャラバン・メイトや 認知症サポーターの養成)	●キャラバン・メイト養成研修会の開催(フォローアップ研修) ●サポーター養成研修会の実施(個人・商店・事業所) 商店・事業所にも積極的にサポーター養成研修会を呼びかける。 サポーター養成研修会を終了した個人・商店・事業所に呼びかけ サポーターであることが分かるように、店頭などにステッカーの 掲示をしてもらう。 ※現在、学校などに呼びかけ、ステッカーデザインを募集中。 ●介護ボランティアの育成 ・サポーター養成研修会を終了した人に協力を得る。

【各地区での取組み状況】

事業名	事業内容
モデル地区での活動	●大倉地区 ⇒資源マップの作成・各戸配布 ●佐原新宿地区 ⇒資源マップの作成・各戸配布 ●野田地区 ⇒作成したマップの活用 ●府馬地区 ⇒作成したマップの活用 ●住金団地 ⇒徘徊 SOS ネットワークの実施

おわりに

今回の事業では、「認知症」というテーマをまだ住民の多くが課題と意識していない段階から始まりました。「まず認知症って何だ?」「精神病か?」「どうせ治らないんだろう?」そのような言葉もよく聞かれ、特に各モデル地区で住民と直接向き合うとそれは実感するものでした。

その段階で住民に活動を始めましょうと問いかけても、そう簡単に意見は挙がってくるものではなく、また私達自身も「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」と言っても何をすればいいのか。本当に試行錯誤の取り組みでした。

そのような中、1つ1つの活動で重きを置いたことは地域に積極的に出かけ、住民と向き合うことでした。この事業は認知症に対して住民の気持ちを動かし、地域みんなで本人及びその家族が安心して暮らせる地域をつくるのが目標です。表面的な形だけの事業で終わらず、住民の内面に訴える為には、自分達の想いを直接住民へ伝え、一緒に取り組む仲間や理解者を1人1人増やしていく、そのような活動の繰り返しだったと振り返ります。

モデル事業を行った成果は、数字では現せない部分が多いのですが、各モデル地区の住民の様子やサポーター養成数、キャラバンメイトが教室を開催している姿などの活動をみると、このモデル事業の期間で認知症の理解は進んだと感じています。

今後も認知症支援への取り組みは継続するが、このモデル事業の期間に関わった住民が、今後、香取市の認知症支援の土台となるよう行政としてバックアップしていきたいと思えます。

「地域におけるネットワークの構築」は地域包括支援センターの事業の中に位置づけられています。これまで各組織の代表者や専門職のネットワーク会議などは開催してきましたが、一般住民を巻き込んだ新しい取り組みが出来る機会は多くはありません。一緒に課題を考え、活動を一緒に取り組んでいく、地域包括支援センターとしても貴重な経験となる取り組みとなりました。